第2決算審査特別委員会報告

委員長　徳永　清豊
副委員長　山北　清四郎
委員　牟田口　美智子
　　　井上　護
　　　中島　和正
　　　小畠　裕司

平成25年度大木町一般会計歳入歳出決算認定

福祉課

配食事業は、班編成を2班から3班に組み換え、不測の事態に備えている。社協全体の事業を考慮し、人を増やしていくべきと考えており、月一回の定例会を開催し連携を図っている。配食事業の利用者の増加が見込まれ、人員配置・体制を整えることを望む。

審査のようす

こども未来課

入院費補助の対象児童を就学前児童から小学校6年生まで拡充され、さらに拡充を望んだが、保育料が27年度から変わるので、決まってから検討し対応する。

また、子ども・子育て支援新制度により、平成27年度からの保育所、認定こども園等への入所では、各自治体による区分認定と入所調整が行われる。久留米市の江上認定こども園には大木町から50人強の児童が通園しているが、今まで通り受け入れは行われる予定。

健康課

アクアスの修繕、健康福祉棟の修繕、やすらぎ苑外壁工事などが協議に上り、特に健康福祉センターでは人命尊重の観点から優先順位を決め、事故が起きる前に解決するよう要請した。さらに修繕・補修の完了検査にプロを入れ、図面はペーパーでなく、データで受け入れるように提案した。

また特定検診受診率が下がっており、受診率向上に努めるよう指摘した。

温泉施設アクアス

生涯学習課

地区公民館長研修会や町民協働委員会など研修会や会議を開いたが参加者が少なく課題が残る。また読書週間の際の講演会など思うようにいかなかった。

図書、公民館、体育、生涯学習など事業・行事が多いので業務の整理を行うよう要請した。

埋蔵文化財の包蔵地の公開、また情報センターでは住民活動がしにくく改善を望む。

税務町民課

人権教育啓発基本計画策定のための町民意識調査と福岡県民意識調査の結果に差はなく、同和問題に対する関心が若い世代にやや薄れてきている傾向にある。

学校教育課

小中学校の光熱水費節約が顕著な努力のあとが見える。

施設保全の中長期計画は、緊急保全だけで億単位の資金が必要で、大莞小学校のような緊急を要するものから進めたい。また見守り隊の人数確保のお願いをしたが、学校運営協議会で協議されるよう学校と相談する。

環境課

道の駅ＥＶ急速充電器の利用状況は、電気自動車普及のため無料の時２７２名、有料化して84名に減少したので改善を望む。

循環センター、道の駅はそれぞれ黒字になり、26年度変更協定により減額調整された。

庁舎をはじめ町が所有する施設の経年劣化による修理、補強など課題が多い。役場内に営繕担当係を設けるよう提案した。

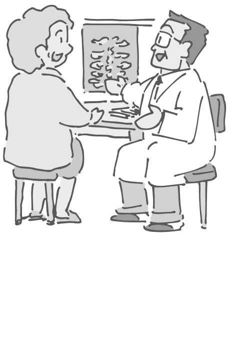
審査のようす

25年度国保会計決算審査

１７５９万円余りの赤字決算で、26年度からの繰上充当金により補填。大木町国民健康保険の被保険者は年間平均、世帯数は１８５９世帯、被保険者数は３５７２人、医療費総額14億７６７万３８６３円、一人当たり39万４０８６円。

健全な国保運営を目指すために

健康増進、特定検診の受診率を高め早期発見、早期治療によって病気を防ぎ、医療費抑制を図り、国民健康保険制度が安定した運営になるよう指示。



25年度後期高齢者医療会計決算審査

実質収支額８５５万５４１４円の黒字決算。

運営は福岡県広域連合が行ない、町のかかわりは、被保険者と直接関係する異動、保険証の交付等の窓口業務や納付書の発行、保険料の徴収業務等である。